

こまざわ 経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

卒業おめでとう！

ご卒業おめでとうございます。

新しい航海への船出を心からお祝い申し上げます。今日から同窓会の新会員となられる皆さんを心から歓迎すると同時に、ともに歩いていけますこと、我々駒澤大学卒業生一同にとりまして何よりの喜びです。

釈尊は「過ぎ去った日のことは悔いず、まだこない未来にはあこがれず、とりこし苦勞をせず、現在を大切にふみしめてゆけば、身も心も健やかになる」とお説きになります。

剣豪宮本武蔵は「我以外皆我師」と言う言葉を残しています。謙虚な「学ぶ心」の大切さを語る言葉です。

この素敵な言葉を、新しい門出のお祝いとして同窓会から皆さんにお贈りします。

社会に出たばかりの時は、どんな人間でも、未熟な一人の新人です。しかしながら、学ぶ心を持ち続け、かつ、自分には必ずできる、という信念をもって諦めずにチャレンジを継続していけば、新たな創造に繋がり、その結果、皆さんも自然と人物として評価されていきます。そして、より大切なことは、将来成し遂げて大成してからも、その姿勢を決して忘れないことです。

卒業生が集う同窓会では、先輩から様々な人生訓を得、自らを涵養し、友人との交流も深め、後輩を育てていくことができます。

皆さんには同窓会に入って、未来に向けて一緒に夢を語りあいながら、日本そして国際社会に貢献していただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症によって、世界は一変しました。早期の収束を何より願いますとともに、皆さんのご無事息災を祈念いたします。



経済学部同窓会会長
大場やすのぶ

令和3年の経済学部の人事について

令和3年3月に1名の教員が定年退職を迎えられます。一方、新年度には4名の教員が着任します。いま、経済学部では、若手教員や女性教員の割合が高まっています。

定年退職(令和3年3月)

齊藤 正 教授(銀行システム論・現代銀行事情)

新任(令和3年4月～)

大前 智文 准教授(中小企業論) 河田 陽向 専任講師(ミクロ経済学)

栗城 綾子 専任講師(財務会計論) 田中 聡一郎 准教授(社会政策)

新・学部長(令和3年4月～)

森田 佳宏 教授(会計監査論)

新・大学院経済学研究科委員長(令和3年4月～)

小林 正人 教授(日本経済論)

新・大学院商学研究科委員長(令和3年4月～)

石川 祐二 教授(管理会計論)

第9回経済学部同窓会総会（書面議決） の結果について

新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮して、第9回総会を令和2年11月に書面決議により実施した。その結果は以下の通りである。

記

第9回経済学部同窓会総会の結果、提案された議案は

承認	不承認
171	0

となり、「会則」第12条2（注）により、すべて承認された。

なお、総会に際して、会員から意見が寄せられたので抜粋して紹介する。

- ▷ 学科別の同窓会も開いて欲しい。
- ▷ 他学部との合同の同窓会も開催して欲しい。
- ▷ 旅行の企画を立てて欲しい。
- ▷ 同窓会誌に会費納入者名表記があっても良いのではないか。

（注）「総会は会員をもって構成し、総会の議事は、出席者の過半数以上の賛否をもって決する」



ソフトボール大会中止のお知らせ

例年10月に開催され、同窓会からも毎年ご後援をいただいているソフトボール大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020年度は中止となりました。

＜著書紹介＞

姉齒暁著

『農家女性の戦後史～日本農業新聞
「女の階段」の五十年～』に学ぶ



1947年（昭和22）生まれ。大学院で暉峻衆三氏の『日本農業問題の展開・上』に学びながら、農村工業地帯の小作争議をテーマに修士論文に取り組んでいた当時聞いた、元地主の「小作人のくせに」の言葉が今も強く記憶に残っている。『農家女性の戦後史』の同時代を断片ながら感じて生活してきたものとしてこの労作を『経済学論集』の論文と合わせて読む機会を得たことに感謝している。

著者が目指しているのは、戦後の民主憲法下においてなお「家制度」から解放されることのなかった農家女性の中でも特にその地位の低さが問題とされる「嫁」の生活記録から、嫁たちが経験してきた「不条理さ」の理由を解き明かすための作業である。その作業の中心にあるのが『日本農業新聞』の投稿欄「女の階段」に登場する農家女性たちの声である。その声は「農村の内側からみたりアルな女性史であり、政治史、経済史、農政史であり、そして生活史そのものである（14頁）」。

何よりも、投稿した女性たちへのインタビューが時代を具体的に私たちに語り、圧巻である。

農地改革によって、寄生地主制度が基本的に解体され、農地の所有関係は大きく変化し小作制度は終わりを遂げた。しかし、小零細な耕地所有の農業経営は、そのままであった。その農村に根の張った「家」制度の克服には法的根拠としての「家」制度の撤廃に加え、農村における「家」制度の克服が必要であった（18頁）。なぜ、家制度は否定されたにも拘わらず、「家」の嫁の立場は変わらなかった。なぜ、解放・民主化されたはずの農村に「不条理」は、強固に残ったのか。

1967年（昭和42）に登場する「女の階段」の投稿は、敗戦直後に荒廃した大地で懸命に食糧難と戦った女性たちが、嫁として、主婦として、農作業に育児に家事にそして、義父母の介護の中で背負った思いをつづったものから始まっている。大多数の農家女性は、農業に従事しながら時の農政に翻弄され、農業の近代化に振り回され、消費経済社会の進展に追いかられながら、なお残る農村の家制度の不条理に潰されそうになりながらも、社会構造の変化の中で必死に生きてきた。

本書は、まさに、「女の階段」＝戦後女性史であり、政治史、農政史、経済史である。そして、深刻化する日本社会の問題点を考える視点を示した福祉社会論である。

（2018年発行 こぶし書房、2,200円、税別）

執筆者 柚木駿一（経済学研究科博士課程51年度単位取得）

経済学部 の 学生 の 活躍

- ① 深見泰孝ゼミが「2020年度証券ゼミナール大会」で優秀賞を受賞しました。詳細は経済学部同窓会ホームページをご覧ください。
- ② 陸上競技部が「第97回箱根駅伝」で総合優勝し、経済学部からは、1区 白鳥哲汰（経済1年）、2区 田澤廉（経済2年）、7区 花尾恭輔（商1年）、10区 石川拓慎（現応3年）が快走しました。今後も応援のほど、よろしくお願いいたします。

新 著 紹 介

2020年の秋に、経済学部教員が下記の本の出版に携わりました。関心のあるタイトルがございましたら、ぜひお手に取っていただけますと幸いです。

- ① 浅田進史・榎一江・武田泉編著『グローバル経済史にジェンダー視点を接続する』日本経済評論社、2020年9月。
- ➡ 本書では、浅田進史教授が「序章 グローバル経済史にジェンダー視点を接続する」、「第6章 ドイツ植民地に模範的労働者階級を創造する——青島の事例を中心に」を、福島浩治准教授が「第8章 ポスト国際分業期におけるフィリピン女性家事労働者—市場と権力に揺れ動くジェンダー」を執筆しています。
- ② 百田義治編著『現代経営学の基本問題』中央経済社、2020年9月。
- ➡ 本書では、松田健教授が「第1章 現代企業論の基本問題」、吉田敬一名誉教授が「第4章 現代中小企業論の基本問題」、長山宗広教授が「第5章 現代起業論の基本問題」、松本典子教授が「第6章 非営利組織研究の基本問題」、岩波文孝教授が「第10章 経営管理論の基本問題」、百田義治名誉教授が「第18章『企業と社会』論の基本問題—CSRをめぐる論点」を執筆しています。

同窓会事務局からのお知らせ

* 同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

* 「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。積極的なご投稿をお願いいたします。

- ・ 論 題：自由
- ・ 字 数：800字以内
- ・ 送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局（下記）
原稿の採否は事務局にご一任ください。

* 役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。

軽い仕事なのでご負担になることはありません。仲間と楽しみながら、同窓会と経済学部の発展ために貢献できます。有志の方は事務局までご連絡ください。

* facebookの公開グループにご参加ください

経済学部同窓会の公開グループ（<https://www.facebook.com/groups/komakei.obog/>）が活性化しています。同窓生の情報発信や情報交換の場としてご活用ください。

経済学部同窓会事務局（経済学部事務室内）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

電話：03-3418-9343